



世界に希望を生み出そう

KAWASAKI ASAO ROTARY CLUB

# 川崎麻生ロータリークラブ

会長 青戸 慶太

幹事 中山 隆弘



大矢 紀

## 第 1426 回 例会記録 2023 年 9 月 8 日 (金) S.A.A.委員長 長瀬 敏之

- 【開会点鐘】 青戸 慶太 会長
- 【S. A. A】 鈴木 昭弘 委員
- 【例会場】 ホテルモリノ
- 【ソング】 ローターソング『それでこそロータリー』
- 【本日の卓話者 紹介】 青戸慶太 会長

◆王 坤 さん 米山奨学生

### 【会長報告】 青戸慶太 会長

1. ガバナー事務所より、  
○『2023-24 年度地区大会』のご案内が届いております。11月10日(金)・11日(土) パシフィコ横浜会議センター ※リーフレット本日配布
- 『地区大会記念チャリティーゴルフ大会』のご案内が届いております。10月24日(火) 磯子カンツリークラブ 参加費 8,000 円  
※ご参加ご希望の方は宇津木会員迄お申し出ください。
- 『米山カウンセラー研修会』開催のご案内が届いております。10月3日(火) 15:00~17:00 オンライン(Zoom)  
※宇津木研修委員長代理出席予定
- 日台ロータリー親善会議台北大会で企画されている『親睦ゴルフ』『親睦旅行』へのお誘いのご案内が届いております。
2. 横浜市営地下鉄 3 号線延伸早期完成期成同盟より、  
《メトロの風ニュース第 10 号》が届いております。



### 【ご報告】秋田県豪雨被災地支援金は下記の通り実施。

- ・金額 38,200 円(内訳 募金箱 12,200 円+特別口座〈ニコニコ〉26,000 円) ・地区への送金日 9 月 1 日(金)

### 【幹事報告】 中山隆弘 幹事

- ★例会変更 ○川崎高津南RC ・9/11(月) 移動例会 納涼家族会 18:30 点鐘 CHILL武蔵新城
- ・9/18(月)例会なし ・10/ 9(月)休会(祭日)
- ・10/16(月)例会なし ・10/30(月) 例会なし
- 川崎中央RC ○川崎宮前RC ○川崎鷺沼RC

### 【出席委員会】 鈴木豊成 副委員長

例会	会員	出席	欠席	修正	出席率
1426 回	26	17	9		65.4%
1425 回	26	22	4	2	92.38%
1424 回	26	19	7	2	80.8%

### 【各委員会寄付】

委員会	第 1426 回(件数)	合計
ニコニコ委員会	12 件	¥12,000
米山記念奨学会	1 件	¥10,000



- 第 1 4 2 7 回例会 9 月 1 5 日 (金) クラブ米山奨学委員長会議報告 琴 平 会 館
- 第 1 4 2 8 回例会 9 月 2 2 日 (金) ガバナー公式訪問&クラブ協議会 ホテルモリノ
- 第 1 4 2 8 回例会 1 0 月 6 日 (金) 地区 R 財団セミナー報告 ホテルモリノ

[例会日] 第 1・2・3・4 金曜日 12:30~13:30 [例会場] ホテルモリノ 新百合丘 7F TEL: 044-953-5111

※第 5 金曜日 休会 連絡先: 川崎麻生ロータリークラブ事務所 TEL: 044-951-1322

## 【ニコニコ委員会 メッセージ】

◇青戸慶太会長【王坤さん 卓話宜しく  
お願いいたします】◇大野勉会員【王君  
卓話頑張って下さい】◇親松明会員  
【昨夜は有難うございました】  
◇鈴木昭弘会員【王君 加油(ガンバレ)!!】  
◇鈴木憲治会員【やや涼しくなりました】  
◇宇津木茂夫会員 ◇梅澤馨会員 ◇梶俊夫会員  
◇佐々木範行会員 ◇鈴木豊成会員 ◇山下俊也会員  
◇蓬田忠会員 以上、ご協力ありがとうございました。

## 梅澤馨 委員長



## 【米山記念奨学委員会 メッセージ】

## 蓬田忠 委員長

◇鈴木昭弘会員【王君 加油 !!】ご協力ありがとうございました。

## 【卓話】

## 米山奨学生 王坤さん

光陰矢の如し、あっという間に、前回の卓話から一年間が過ぎました。自分の目標のような優秀な人材まで、まだまだ遠くて、もっともっと頑張らないといけないのですけれど、大学の四年間の勉強、ロータリー米山記念奨学生としての成長を通して、2019年に来日したばかりの私より、だいぶ変わったと思っています。心理的な成長、専門的な知識、奉仕の価値観、感謝の気持ち、年齢と一緒に上がったのは日々の成長だと考えています。



今日はロータリー米山記念奨学生としての最後の卓話で、四年間の成長と、これからの理想を皆さんに報告させていただきたいと思います。

大学生活は、新鮮感から始まりました。一生懸命に頑張った半年間の日本語学校での勉強を通して、日本映画大学に入学しました。初めての環境で、新しい友達、知識、そして母国とは異なる社会文化と社会環境に囲まれることが新鮮で、興奮と緊張が入りまじった日々でした。

一年生の時の私は、「新鮮」と「試し」というテーマで成長してきました。何でも試してみたいという好奇心が湧き、新しいことに挑戦したり、異なる分野に興味を持つたりしました。授業だけではなく、サークルやボランティア活動、さまざまなイベントにも参加しました。その結果、自分がどの分野が得意で楽しいと感じるのかを、見つけることができました。

しかし、一年生の時の私には、浅い考えがありました。いわゆる成功な人生しか生きがいがないという浅薄な価値観で、「成功」ということを探し始めました。あの時の私には、成功の定義は、他人と比べて



日本映画大学 白山キャンパス  
(HPより)

偉大であること、要は有名人のような地位や名誉が成功を示すものだと思っていました。他人との比較や物質的な成功に固執していました。そのため、自分の価値や幸福を外部の要因に依存して、考えてしまっていました。



自分を評価する際には、他人との社会的な地位を比較してしまい、成功を表面的なものとしてとらえていました。理想的な、いわゆる成功者になるために、日々努力する一方、自分の価値、正しい人生観、成功の定義に対する疑問や悩みは、ますます激しくなってきました。

入学して一年が経ち、大学二年生になった私は、映画についての専門的な知識や映画史などを学ぶ機会がありました。また、有名な俳優や監督の本を読むことで、映画制作の裏側や芸術的な要素についても深く理解しました。これらの学びを通じて、将来の目標や夢を確立する手助けをしてくれました。

大学二年生の時の成長のテーマは偉い目標を追求することでした。映画制作においては、偉い作品を作り上げるといった目標が私の心に芽生えました。これは単なる学問の域を超え、私の情熱と創造力を引き出すものでした。

この時期、私にとって成功の定義は、遠大な目標を設定し、それを達成することでした。映画制作においては、自分のアイデアを実現し、観客に感動を提供することが成功と考えました。この考え方は、私にとって、大きなモチベーションとなり、新たなプロジェクトに挑戦する勇気を与えました。

大学二年生の時、多くの困難や試練に直面しましたが、それらは私をさらに強くし、目標に向かって進む力を与えました。また、同じ志を持つ仲間と協力し、プロジェクトを成功に導くためのチームワークの重要性も学びました。

そして、過去の名作や優れた映画作品から学び、自己の芸術的なスタイルを磨く過程で、私は自己表現の幅が広がりました。成功は単なる目標の達成だけでなく、自己成長と芸術的な探求を含むものだと感じました。

ただし、成功って一体なんだろうってという悩みを持って二年生の冬休みに入りました。



明治神宮(イラスト)

2022年の元日、「成功の道を教えてください」という願いを持って明治神宮で初詣をしました。あの日、朝から晩まで、明治神宮で初詣のためくる人々を観察しました。地味な人、格好がいい人、若者、老人、家族と一緒にくる人、恋人と一緒に来る人、一人でくる人、混んでる人々の中で、成功者がいるはずだよね、じゃ、成功者の願いは何だろう？もっと財産をもらう？健康？それか、もっと偉い人間になりたい？つまり、どんな偉い人でも悩みがあり、欲望と現実の差があるわけなんじゃない？と独り言を

言っていました。三年前の目標は日本へ留学に行くことだった、今はもう日本にいる;2年前の目標は映画の大学に入学したかった、今はもう日本映画大学の二年生になった;一年前の目標が身体表現を専攻したかった、今、身体表現専攻のオーディションも合格した。しかし、今でも自分の人生観に悩んで、色々、お金が欲しい、成功者になりたい、有名になりたい、何でも欲しい、要するに、目標とか達成したら、もっと高い欲望が出る、つまり今悩んでることは成功の道じゃなくて、欲望と現実の矛盾だと悟りました。



その日の夜、中国の哲学の思想の中で、成功の道を探ね始めました。中国の伝統文化での価値観は欧米とは大分違います。例えば、中国の儒教の思想では、自己を高め、誠実さ、仁愛、礼儀正しさなどの仁徳を実践ことが成功の基盤とされます。他人との調和や社会的な義務を果たすことが、個人の成功とされています。要するに、成功は孤立した個人の達成物だけでなく、人間関係においても測られます。家族や社会との良好な関係、他人との協力が成功につながるとされます。儒教においては、五倫や孝道(親をうやまいつかえる道)などの概念が重要です。

中国の道教では、しばしば「道」や「自然」との調和が成功の鍵とされます。自然の流れに従い、抵抗しないことが成功への道だと説かれます。自然との調和を実現することが、内面的な充実として捉えられています。つまり、内面的な満足感や平静も成功の一部とされます。内面的な平和と調和を見つけることが、物質的な成功だけでなく、精神的な成功と捉えられます。

中国哲学はしばしば長期的な視野を強調します。成功は瞬時のものではなく、時間をかけて築かれるものとされます。根気強さと忍耐力が重要です。要するに、中国の哲学では個人の成功を単なる物質的な繁栄だけでなく、倫理的な価値、自然との調和、他人との人間関係、自分の内面的な満足感といった多面的な要素から、成り立つものと捉えています。その思想が自分の価値観に強い影響を与えました。

そこから、中国の哲学の王陽明の本を読み、「心学」を学び始めました。心学、心はこころ、心が純粋で正しい方向に向かう限り、人は道徳的に優れた行動を取ることができることとされました。つまり、心学はこころの内面に探求する学問です。



王陽明

王陽明は16世紀の中国で活躍し、その思想は中国哲学史において、重要な位置をしめています。王陽明は「知行合一」(ちこうごういつ)という概念で知られています。知は知識、行は行動。これは彼の最も重要な哲学的信念であり、知識と行動が一体となっているべきだという考えです。彼は、知識を単なる学問の中で蓄積するだけでなく、それを実践に活(いかす)ことの

重要性を強調しました。つまり、我々が知っていることを実際に行動に移すことが真の知識であるというのです。さらに、格物致知(かくぶつちち)の概念も学びました。格物致知(かくぶつちち)っていう意味は、物事をよく観察し、その本質を理解することで、知識や洞察を深めるというアプローチです。物事を探求、自己の内面と外部の調和を図ることで、人間の道徳的な成長が可能であるという価値観です。さらに、王陽明は教育の重要性を強調し、人々が善と道徳的な価値観を養うために教育を受けるべきだと主張しました。また、自己教養と他者への奉仕を通して、道徳的な資質を向上させるべきだと説きました。王陽明の思想が私の人生観、価値観、道徳観に重要な指導になりました。

2022年の春節、学校でロータリー米山記念奨学生合格書が届き、先生より渡してくれました。そこから、ロータリー米山記念奨学生になり、奉仕をテーマとして大学三年生になりました。

大学三年生の成長のテーマは『奉仕』。私はロータリー米山記念奨学生としてさまざまな奉仕活動やボランティア活動に参加しました。これらの活動を通じて、私は奉仕の意味を学び、新たな視点から社会とのつながりを感じました。交流会などを通じて、他の人々とのつながりを深める機会も得ました。地元のコミュニティセンターでのボランティア活動では、私は素晴らしい友人を作り、共に笑い、共に成長しました。また、社会奉仕プロジェクトでの参加を通して、異文化やバックグラウンドを持つ人々と交流し、理解を深める機会を持ちました。特に、奉仕活動を通して「人間の価値が社会への貢献にある」という認識が確立しました。



ロータリーの活動に参加することで、他人の優れた点や能力と比較し、反省しながら、自分自身を見つめ直し、成長する機会がありました。大学での舞台劇や撮影で他人との協力を通して、自分の弱点や改善すべき点を明確に認識し、それを克服するための努力をかさねました。この経験は私にとって、成長と学びの機会となり、謙虚さと柔軟性を養うことができました。

また、大学三年生の時には「王陽明」の心学を勉強し続けました。哲学は私にとって、成功に対する考え方を根本から変える要因となりました。以前は成功を他人との比較や競争によって測っていましたが、哲学の探求を通して、成功の本質は社会や他人、自然にどれだけ自分の価値を貢献できるかにあることを理解し、外への探求から自分の心への探求になりました。

大学三年生の勉強や奉仕活動から、私の成功の定義は変わりました。成功はもはや他人との比較ではなく、社会への奉仕と貢献に関連しています。私は自分の力を最大限に活かし、人々や社会に対して、何ができるかを考え、実行することが、本当の成功であると信じています。

この新しい視点から、私はさらに奉仕活動や地区ボランティア活動に取りくむことを決意しました。成功の定義が変わることは、私にとって大きな成長であり、私の人生において新たな段階へのステップアップと捉えています。



四年生になって以来、私は周りの人々を観察し、自分自身に問いかけました。「理想的な人生とは一体何なのだろう？ お金を持つてることか、社会的な地位につくことか、または社会に貢献することか？」と、人生の生きがいについても深く考えました。このような疑問が私を駆り立て、新たな成長への道を模索する旅が始まりました。

その中で、私は自己啓発や成功法則についての本を手に入れました。そして、その中でも特に影響を受けたのが『さとりをひらくと人生はシンプルで楽になる』という本でした。この本を読み始めたことで、私は内省の大切さを理解しました。内省ってというのは内部反省です。人生が複雑でストレスに満ちていると感じていた時期でしたが、この本を通して「シンプルに生きることの大切さ」に気付かされました。

さらに、エックハルト・トールの思想にさわられ、人生には無限の可能性が広がっていることを学びました。私たちの人生は有限であり、一日一日が貴重なものであることを理解しました。そのため、毎日を有効に活用し、自己成長に取り組むことの大切さを認識しました。エックハルト・トールの思想

は、私にとって、時間に対する考えの重要な指針となりました。

一方、私は人間の欲望が天井知らずであることにも気付きました。物質的な成功や欲望が果てしなく広がり、人々はますます満足せずに「もっと欲しい」と思う傾向があることに気づきました。「まずしい人」というのは多くを持たない者ではなく、満足せず「もっと欲しがる人」のことだとさとりしました。

したがって、私に対して、成功とは、お金をどれだけ持っているかではない。地位でもない。成功とは、人生の時間を大切にすること、要するに、誰も見ていないときにも、やるべきことをどれだけしっかりやり、自分ができる限りのベストを尽くした時に、自分を満足させることができ、心の平安を得られることが成功の本質であると考えようになりました。例えば、食事の際にはただ食べるのではなく、その美味しさを感じることに、雨の日にはあせらずに雨音を楽しむこと、勉強する時には知識の深さに没頭すること、遊ぶときにははっきり楽しむこと。これらの瞬間こそが本当の成功であり、幸せな人生の鍵だと認識しました。

大学での学びや、ロータリー米山記念奨学生として経験は、私にとって一生の宝物となり、私がこれから歩む未来の道を照らしてくれるものと確信しています。これらの経歴は、私に知識だけでなく、新しい友情と経験をもたらしました。これまで知り合わなかった多くの素晴らしい仲間と出会い、共に成長しました。さらに、この奨学金を受けて、誰かの支えや期待に応責任を感じ、常にベストを尽くし、恩返しすることを心に誓いました。将来への展望は明るく、私は自信を持って前進します。私をそだて、奨学金と異文化交流で、奉仕の理想を学ぶ機会を提供



してくれた、ロータリー家族のみんなに、心から感謝しております。日本文化の体験活動、異国の奨学生との交流会など、それぞれの体験を通して、自分の視野も広げました。その過程で、私は自己中心的な視点から抜け出し、みんなのために焦点を当てることの大切さを学びました。私たちは日常生活で多くの恵みを受けており、それに気付くことが重要だと思います。

奉仕活動は、その感謝の気持ちを実践に移す機会です。他人を助けることで、私たちは自分の生活がどれだけ恵まれているかを再認識し、謙虚さを養うことができます。奉仕活動を通じて学んだ最も重要なことは、小さな行動が大きな変化をもたらす可能性があることです。私たち一人ひとりの小さな奉仕活動が、コミュニティや社会全体にポジティブな影響を与えることを実感しました。奉仕活動での成長は、私の人生において非常に意味のあるものとなりました。これからの人生テーマは「明日死ぬかのように時間を大切に、永遠に生きるかのように成長していく」です。

四年間の大学生活、二年間のロータリー米山記念奨学生としての活動はまもなくエピローグに至ります。それは学生生活のエンディングである一方、価値を社会に貢献できる社会生活の序の口だと考えています。数年後、数十年後、2022年4月から、2024年3月までの二年間のロータリー米山記念奨学生の生活を思い出したら、麻生クラブの皆さんの笑顔、私に対する丁寧な指導、一緒に奉仕活動してる姿、きっと今日のように心に刻むと思います。

今の私はまだまだ弱いですけれども、コツコツがコツで、未来、再会の時に、優秀な人材になり、ロータリー川崎麻生クラブの誇りになるようにがんばります。「真実かどうか、みんなに公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるかどうか」この四つの

テストの内容と精神が、必ず、一生、忘れずに、奉仕の理想を自分の価値観として、他人を愛して、社会を愛して、自然を愛して、より美しい世界に力を尽くしたいと思っています。

最後に、もう一度、いろいろ応援してくれたロータリー川崎麻生クラブ家族メンバーの皆さんに、心を込めて感謝の気持ちを表します。ありがとうございます。

【四つのテスト】

米山奨学生 <sup>おう くん</sup> 王 坤 さん

【閉会点鐘】

青戸慶太 会長

【会報委員会】 碓井美枝子 委員長 写真: 蓬田忠 委員

